

平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。今年度実施された全国学力・学習状況調査の問題は、平成29年3月に公示された新しい学習指導要領の考え方を踏まえた、新しい調査問題で構成されたものとなりました。そのため、学校（教職員）がこれから求められる学力そして育成を目指す資質・能力とは何かをしっかりと確認するよい機会にもなりました。問題と結果を分析し、今後の学校改善・授業改善に役立てていきたいと考えています。

全国の平均正答率と本校の平均正答率の比較

国語	数学	英語（聞くこと、読むこと、書くこと）	英語（話すこと）
◎	◎	◎	△

◎…上回っている ○…ほぼ同程度 △…下回っている

この調査は、義務教育の機会均等とその水準向上の観点（全国どこにいても一定程度の学力を身に付けられる、向上を図ることができるようにすること）から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育活動の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、生徒の学習状況の改善等に役立てるために、平成19年度から実施されているものです。

今回実施された教科が、国語・数学・英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意しながら結果を分析し、今後に向けた改善を進めていきます。

【国語】

国語への関心・意欲態度、話す・聞く能力・書く能力・言語についての知識・理解・技能のすべてにおいて、バランスよく高い結果となりました。

【数学】

数学的な見方や考え方、数学的な技能、数量や図形などについての知識・理解のすべてにおいて、バランスよく高い結果となりました。領域ごとに目を向けると、数と式、図形、関数について高い結果、資料の活用についてやや低い結果となりました。

【英語】

「聞くこと、読むこと、書くこと」では、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解が高い結果となりました。一方、外国語表現の能力がやや低い結果となりました。「話す」ことでは、外国語表現の能力は高い結果、言語や文化についての知識・理解が低い結果となりました。

【総括】

- 調査で見える七中の生徒の学力は、継続して高い状況にあります。
- △問題文を読んで、何が問われているのかを理解し、適切に答える力をさらに伸ばしていく必要があります。
- △自分の考えを根拠を示しながら説明できる、文章で表現できる力をさらに伸ばしていく必要があります。
- △英語の話すことの調査で、周りの声につられて答えてしまう場面が見られました。自分の考えや出す答えに、もっと自信を持たせることが必要です。

【生徒の学習状況について】

本校生徒の学習状況の「よさ」

- ◎先生は、自分のよいところを認めてくれていると感じている生徒が多い。
- ◎先生は、わかるまで教えてくれていると感じている生徒が多い。
- ◎将来の夢や目標を持っている生徒が多い。
- ◎難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している生徒が多い。
- ◎人が困っているときは、進んで助ける生徒が多い。
- ◎普段、読書をする生徒が多い。
- ◎学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる生徒が多い。

本校生徒の学習状況の「課題」

- △学校の授業時間以外に、普段、勉強する時間が短い。
- △授業で、コンピュータなどのICTを使用した頻度が少ない。

【学校運営について】

本校の学校運営の「よさ」

- ◎調査で見える教科の学力が高い。
- ◎生徒の規範意識が高い。

本校の学校運営の「課題」

- △主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める必要がある。

※ 夏休み中に、先生方一人ひとりが、それぞれの教科における主体的・対話的で深い学びとは、という題で資料を作成し、夏休み明けの研修で発表・交流しました。本校の生徒がもつ「よさ」を大事にしなが、時代の要請にしっかりと応えられるよう、課題解決に向けた取組を一つ一つ着実に進めていきたいと思ひます。